

OPCTest のコマンドライン ユーティリティの使用

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[opctest 実行して下さい](#)

[opctest コマンド](#)

[デバッグ情報](#)

[終了およびやめられた opctest](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

Open Peripheral Controller (OPC) Test (opctest) コマンドライン ユーティリティでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) ペリフェラル ゲートウェイ (PG) OPC プロセスのさまざまなパラメータを表示し、設定することができます。Microsoft Windows OS コマンド プロンプトまたは Telnet セッションから opctest を実行できます。

注: PC でまたは pcANYWHERE を通してコマンド プロンプトを、使用して下さい。コマンド プロンプトの使用はデータ列が頻繁に多くを示すのでよりよいですより Telnet 示すことができる。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

opctest 実行して下さい

opctest 開始するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. `opctest /cust custname /node ICM ノードネーム` コマンドを発行して下さい。注: *custname* は顧客名を示し、*ICM ノードネーム*はノードネームです。例は `opctest /cust abc /node pgx` です。
2. `opctest/`発行して下さいか。コマンドプロンプトで命じて下さい。このコマンドは `opctest` 実行の情報を示したものです。
3. `opctest` 開始した後、`型ヘルプ`または`か`。すべての利用可能なコマンドのリストを表示するために。もっとも一般的な コマンドは PG の健全性および状態を表示するステータスです。

出力例はここにあります:

```
C:\> opctest /?
Version: Release 4.0, Build 04624
Usage: opctest [/f InputFile] [/system SystemName] [/cust Customer]
        [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop] [/help] [/?]
```

図 1 status コマンドのためのより詳しい出力を示します:

図 1 — OPCTest ステータス 出力

```
C:\>opctest /cust/node pgl a
OPCTEST Release 2.5 (service pack 2), Build 03105
opctest: status
OPC Version: Release 2.5 (service pack 2), Build 03116
Release Date: 09/28/98 07:01:57

Current Time: 03/17 17:47:07
Local Time: 03/17 12:47:07 (5.0 hr)
OPC Up: 12/08 18:59:52 (98.9 day)

OPC Sync: 03/13 22:18:33 (3.8 day) (A->B)

Process LastStateChange LastHeartBeat
A opc H-- 03/17 17:46:52 (16 sec)
A pgag OK M- 12/08 18:59:56 (98.9 day) --
A piml OK M- 03/12 19:35:58 (4.9 day) --
A ctisvr --- --
B pgag OK M- 12/08 18:59:53 (98.9 day) --
B piml OK M- 03/13 22:18:42 (3.8 day) --
B ctisvr --- --
B opc H-- 03/17 17:46:52 (16 sec)

PGAgent LastStateChangeTime ConnectATime Status ConnectBTime Status
SideA PIA 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED
SideB P-- 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED 03/13 22:18:32 (3.8 day) CONNECTED

PeripheralID Side State LastStateChange LastHeardFrom
1 A PIM_ACTIVE PR 03/13 22:18:32 (3.8 day) 03/17 17:47:07 (1 sec)

CTIServerNo Side State LastStateChange LastHeardFrom
1 ? CTI_NULL 12/08 19:00:02 (98.9 day) --
```

Annotations in the screenshot:

- Indicates which side of the PG is supplying the Call Router with status of the PG. (Points to OPC Sync line)
- Processes on the PGs & their states. (Points to Process table)
- PGAG – manages session layer communications between the PG & the Central Controller SEE NOTE BELOW (Points to PGAgent table)
- Peripheral Interface Manager/PIM (Points to PeripheralID table)
- CTI Server (Points to CTIServerNo table)

注: ICM バージョン 4.1 では、Peripheral Gateway Agent (PGAgent) セクション現在のアクテ

イブな側面のためのディスプレイ。この例では、PG5B の PGAgent はアクティブな側面です。PG5A はアイドル状態です:

```
C:\> opctest /?
Version: Release 4.0, Build 04624
Usage: opctest [/f InputFile] [/system SystemName] [/cust Customer]
        [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop] [/help] [/?]
```

opctest コマンド

型ヘルプまたはか。 opctest コマンド プロンプトで利用可能なコマンドのリストを表示するために。

いくつかの opctest コマンドは、List_Agents および List_Trunk_Group のような、1つ以上の追加コマンドライン スイッチを必要とします。Type コマンド名前/か。適切な構文を得るため。次に例を示します。

```
C:\> opctest /?
Version: Release 4.0, Build 04624
Usage: opctest [/f InputFile] [/system SystemName] [/cust Customer]
        [/node ICRNode] [/pipe OutputPipe] [/debug] [/stop] [/help] [/?]
```

デバッグ情報

opctest の内の特定のデバッグを有効にするために debug コマンドを発行して下さい。 debug コマンドは [トレースの上の回転](#)によってデバッグ制御を有効にします。デバッグ制御の enablement は OPC プロセスのためにレジストリかターンアップを EMSTraceMask 調節する場合はるかに有効よりです。デバッグ制御の enablement は追加トレースを必要とする OPC の方のトレースの上で回ります。OPC Event Management System (EMS) ログファイルのトレース結果ディスプレイ。EMS ログの出力を表示するために dumplog を使用して下さい。詳細については [Dumplog ユーティリティを使用する方法](#)を参照して下さい。

次に例を示します。

```
opctest: debug /?
Usage: debug_control [/realtime] [/agent] [/halfhour] [/rcmeter] [/routing]
        [/skillgroup] [/closedcalls] [/cstaecr] [/cstacer]
        [/pimmsg] [/ctimsg] [/rcmsg] [/dmpmsg] [/icmsg] [/opcmsg]
        [/mdsmmsg] [/pdmsg] [/inrcmsg] [/passthru] [/tpmsg]
        [/physctrlr] [/periph] [/all] [/help] [/?]
```

変換ルートに関する問題を解決する必要がある場合デバッグ /routing コマンドを発行して下さい。

解決することを終わるときすべての OPC トレーシングを消すために /noall スイッチを使用して下さい。トレースを出て来られて残す場合、パフォーマンス問題は生じる場合があります。

終了およびやめられた opctest

OPCTest ユーティリティを終了するために quit コマンドを発行して下さい。

注意： `exit_opc` コマンドを発行するとき注意して下さい。このコマンドは二重にされた場合 PG の両側で終了するように OPC プロセスに指示したものです。Node Manager は再起動するためにプロセスを強制します呼び出しルータのための設定のリロードを強制する。すべての内部 周辺装置およびエージェントの状態はフラッシュされます。それから、OPC および Peripheral Interface Manager (PIM) は PG および設定を学び直します。

関連情報

- [dumplog ユーティリティの使用方法](#)
- [トレース機能を強化する場合](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)